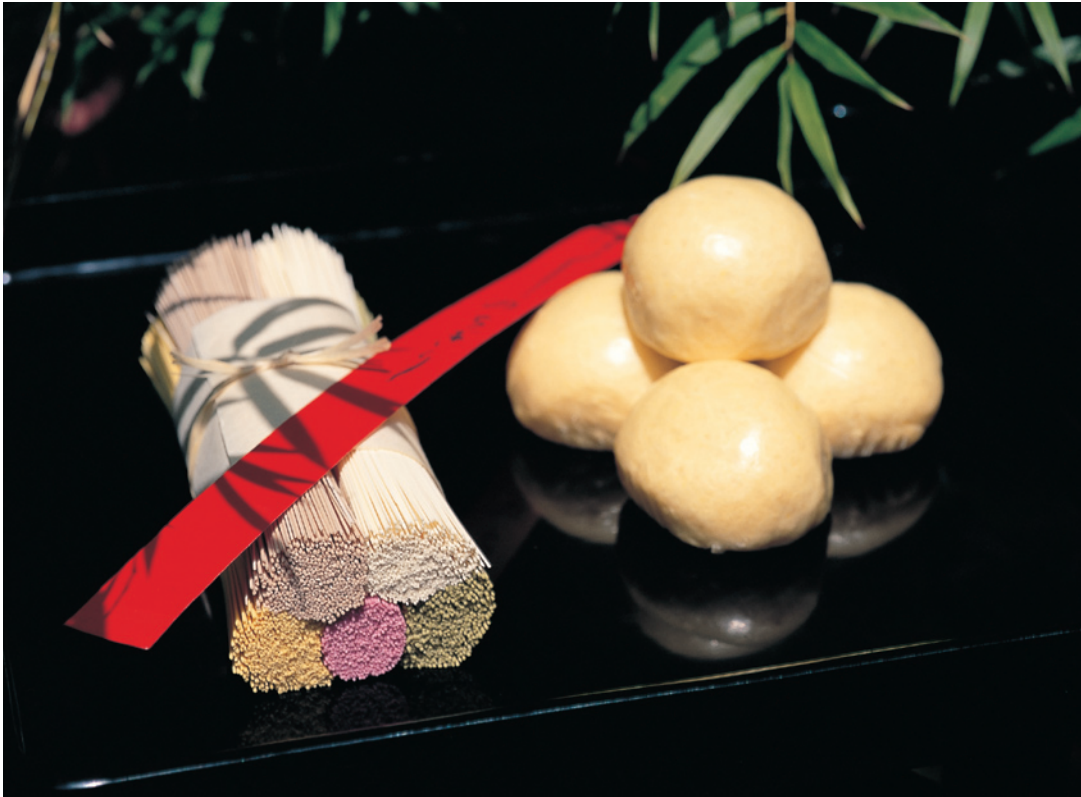


季節の室礼

季節を盛る 言葉を盛る 心を盛る

「室礼^{しつらい}」とは一年の節目に、また人生の節目節目に“季節を盛る”“言葉を盛る”“心を盛る”ことを言います。行事とは行うことであり、先人の霊を招き、客人を招き、感謝の心を供すること。その時々季節にあわせて野菜や果物、花などを盛って、もてなしを形にし、心を込めて表します。



麦の豊穰

七月七日は五節供の一つ七夕。

旧暦では初秋、夏の農作物の収穫期にあたります。

この時期に穫れる麦からできた食物に、

願いを書いた短冊と笹の葉を添えた室礼。

五色そうめんの色は、

五行の木、火、土、金、水を表しています。

これらの食物は、

神様にお供えした後に、

畑の豊穰に感謝しながら皆でいただきます。

直会（なおらい）と言い、

そこまでを含めて神事とされています。

受講の感想

まず七夕の由来を学ぶ。古代では布を織ることは神聖であり、織りあがった布を棚に供えたことからの語源「棚機」。夏の作物豊穰への感謝。そこに中国から伝わった織姫・彦星の伝説と乞巧奠（学問や針仕事の上達を願った）の行事。旧暦七月七日の夕刻に行うことから「七夕」となったとのこと。梶（舵）の葉をハサミで切る。7本の針に赤い絹糸を通す七孔（針穴との格闘で願いを込める余裕なし）。死者の魂を呼ぶための琴柱を立て、徒花がない茄子（成す）を願望筆の筆置きに。書いた願い事は「平穏でありますように」と「二日」日を大切に、そして楽しく。代理受講で緊張したが、先生の技と庭の緑を拝借してなんとか形にしてみた。（西山耕一）



山本三千子先生の著書：「室礼おりおり」(NHK出版)、「暮らしの室礼十二か月」(淡交社)、「[[四季の行事]のおもてなし」(PHPエル新書)ほか。

提供：室礼三千（しつらいさんぜん）

東京都杉並区浜田山3-16-5 Tel 03-3304-7020（火～土曜日午前10時～午後5時／日・月曜定休日）●体験教室もあります